

第3回観光・まちづくり教育賞最終審査結果

※学校名、学年は、応募当時(平成22年度末)時点のものです。

総務大臣賞

島村 雄次郎 佐藤 歩(小平市立小平第四小学校) 東京都

授業テーマ

「アド街ック天国 ～今日は四小付近に出没します～」

選考理由:「地域の良さを伝えてくださりありがとうございました。」という地域からの声を大切にしたい。本実践は、人と人の温かいつながりがしっかりとつながっているということを授業化しお仕事体験という形で実践している。子どもたちのやりがい、達成感が伝わってくる論文である。



観光庁長官賞

戸井 和彦(新居浜市立角野小学校) 愛媛県

授業テーマ

「まちの発展に尽くした先人の業績を調べ、市や地域の人と連携し合って地域のよさをアピールする。」

選考理由:産業遺跡を子どもたちに授業するにあたり教師の教材研究が深く、地域を巻き込んだ実践になっている。【ふるさと企業家を育てる】という視点が画期的であり、カタログ、パンフレットといった発信方法は、子どもたちが熱中して取り組んでいる様子が、論文より伝わってくる。



神奈川県知事賞

小川 幸一(横浜市立南吉田小学校) 神奈川県

授業テーマ

「まちの魅力を伝えよう 「まち」づくりは「つながり」づくりだ。」

選考理由:3割の児童が外国人・外国につながる児童の学校。自分たちが住んでいる町の魅力のとらえさせ方やまちづくりを、人づくりととらえ実践を重ねている。2年間という期間を通して、学校としてどのように地域と関わっていくべきかを考えさせられる論文であった。



大会会長賞

八巻 修(宇都宮大学教育学部附属小学校) 栃木県

授業テーマ

「附属小はっとステーション ～「まちづくり」から「学校・学級づくり」～」

選考理由:まちづくりに関わっている人に、スポットをあてている。資源については学習するが、そこに至るまでにかかわった「ひと」についての学習を進めていくことは、まさにひとづくりにもつながる。学校や地域で主体者として活動していくためのプロセスが、論文に示されている。



神奈川新聞社賞

橋本 信介(三浦市立三崎小学校) 神奈川県

授業テーマ

「三崎、大好き ～みんなでつくる・三崎の力～」

選考理由:地域を巻き込んだ実践である。地域の人々の思いはもとより、関わりを作るイベントを継続している。学年ごとのテーマを地域資源に限定し、下町の商店街で1年～6年が学習の成果を発表している。町の活力のもとになっており、次世代を生きる子どもたちへの新たな視点を与えている。



奨励賞

福島県 小野 一豊(郡山市立富田小学校)

静岡県 山本 新一(静岡市立玉川小学校)

栃木県 山口 浩彦(栃木市立大宮南小学校)

福井県 上木 信弘(越前市立吉野小学校)

神奈川県 桜井 健一(川崎市立王禅寺中央小学校)

山口県 内藤 恵子(美祢市立伊佐中学校)

神奈川県 高橋 優(小田原市立富水小学校)

新潟県 松原 大介(新潟市立宮浦中学校)

神奈川県 西山 弥生(横浜市立綱島小学校)

沖縄県 赤嶺 美智子(糸満市立糸満小学校)
嶺井 育馬(糸満市立糸満小学校)

香川県 河田 祥司(香川大学教育学部附属高松小学校)